

本会監事 大阪大学教授

藤 直幹博士 訃



本会監事、大阪大学文学部教授藤直幹博士は、去る昭和四十年

八月二十四日、病のために逝去せられた。学界にとっても、また
史学研究会にとっても、まことに痛恨のことといわねばならぬ。

ここに博士生前の事蹟の概略を録して、哀悼の微意を表したいと
思う。

藤博士は明治三十六年三月六日、徳島市に生まれられ、学業進んで昭和三年三月、京都大学文学部史学科（国史）を卒業、直ちに大学院に入学、ついで昭和六年三月、文学部講師（専任）を嘱託された。あたかもこの年は、京大国史研究室創業のことに尽力せられた三浦周行教授の定年退官のときに当り、新鋭の藤講師は以後教室においては中世武家時代の社会・文化・思想等の諸問題を講じ、主任教授西田直二郎博士を助けて研究室の運営に努め、やがて昭和十一年三月、助教授に就任された。第二次大戦前後の時期は、学界にとっても大学にとっても、ひとしく苦難のときであつたが、よく国史研究室の維持・発展に尽力され、京大での在職は十七年に及んだ。昭和二十三年九月、大阪大学に法文学部が創設されるにあたり、博士は翌十月迎えられて同学教授となり、国史学講座を担当し、ついで二十八年四月には法文学部を分離して新設した文学部に移り、四十年逝去されるまで、阪大在職も十七年にわたつた。その間、同学国史研究室の整備・発展に努力されるとともに、評議員・文学部長などの要職をも歴任された。

藤博士は京都大学在学中から三浦周行・西田直二郎両教授の指導をうけ、前者の緻密な実証主義史学と後者の清新な文化史学とを総合深化させながら、日本中世史の研究を推進された。その研究の方向と成果とは、後掲の主要著作目録によつても伺いえるが、

中でも「中世武家社会の構造」は、武家政治の精神と社会構造との

関連を究明して、独自の研究領域を開拓したものであった。ま

た学位論文「中世武家故実の研究」は、従来ややもすれば事項解

説的に扱われてきた武家故実について、その形成・推移を追求し

て中世武士の精神生活を攻究したものである。このように日本中

世史の重要な問題について、文化史の立場から研究を進め、顕著

な業績をあげられるとともに、晩年には花園大学への出講とあ

まっで、中世文化の基調をなす禅学の探究に全力を傾注してお

れた。さらに、三十有余年にわたる京大・阪大での研究室生活の

ほかに、藤博士は多年大阪大学適塾記念会および同懐徳堂記念会

の理事・委員として、社会教育の面にも活動され、また大阪府文

化財専門委員および和泉地区遺跡臨時調査会委員長として、大阪

府下の文化財の保存・研究に尽力され、それに関する調査報告書

は学界から高く評価されている。

— 史学研究会に關しては、藤博士は京大卒業以来、委員または評

議員として会務の処理にあたられ、昭和三十二年、監事に就任し

て会の発展のために尽力された。終りに博士の略年譜と主要著作

目録とを掲げて、その活動と功績とを偲ぶよすがとする。

(時野谷 勝)

藤博士略年譜

明治三六、三、六 徳島市轍町に生まれる

昭和 三、三、三〇 京都帝国大学文学部史学科(国史学専

攻)卒業

昭和 三、四、一 京大文学部副手を囑託する

昭和 三、五、三 京大大学院入学

昭和 四、三、三一 京大文学部副手の囑託を解く

昭和 六、三、三一 京大大学院退学

昭和六年度より一〇年度まで 京大文学部講師を囑託する

昭和 一、三、三一 京都帝国大学助教に任ずる(文学部

勤務)

昭和 二三、五、一三 「中世武家故実の研究」により京都大

学より文学博士の学位を授ける

昭和 二三、一〇、二五 大阪大学教授に補する(法文学部勤務、

国史学講座担任)

昭和 二七、九、三〇 大阪大学評議員に併任する(昭和三二、

五、三一まで)

昭和 二八、四、一 大阪大学教授(文学部)に配置換する

昭和 三〇、四、一 大学院文学研究科史学専攻担当を命ず

る

昭和三一、四、一 花園大学講師（昭和四〇年度まで）

昭和三一、四、一 史学研究会監事

昭和三一、七、一 大阪府文化財専門委員を囑託する（昭和四〇年度まで）

和四〇年度まで）

昭和三三、四、一 大阪大学文学部長に併任する。大学院

文学研究科主任を命ずる（ともに昭和

三五、三、三一まで）

昭和四〇、八、二四 從三位に叙し勲三等旭日中綬章を授け

る

昭和四〇、八、二四 午前十一時五八分、阪大微生物病研究

所付属病院にて死去

昭和四〇、九、二五 大阪大学文学部葬

主要著作目録

〈著書〉

中世武家社会の構造

目黒書店 昭一九・五

天皇制の歴史的理論的解明

目黒書店 昭二一・五

中世文化研究

河原書店 昭二四・一

国史の真実性

丁子屋書店 昭二四・一一

日本の武士道

創元社 昭三一・三

〈編著〉

日本史論集 古代社会と宗教

若竹書房 昭二六・二

図説 日本人の歴史
——生活と文化——

創元社 昭二九・三

歴史家のみた 講談の主人公
（原田伴彦と共編）

三一書房 昭三一・一

〈共著〉

河内における古墳の調査（大阪大学文学部
国史研究室研究報告）

昭三九・三

〈監修〉

高槻文化研究会編「片山家所蔵文書目録」

昭二六・七

堺市教育委員会編「堺の歴史」

昭二七・六

高槻市文化研究会編「高槻藩永井家文書上」

昭二七・九

高槻市文化研究会編「高槻藩永井家文書下」
（高槻郷土叢書4）

昭二八・六

高槻市文化研究会編「森田家所蔵文書目録上」

昭三〇・九

（高槻郷土叢書6）

（論文目録は省略）